

掲載しきれないイベントの写真などは、糸満市の「フェイスブック」「Instagram」「ライン」に掲載しています。



グ
イ
ラ
ス
タ



フ
エ
イ
ス
ブ
ッ
ク



ラ
イ
ン



糸満市では、Instagramを活用して、糸満市で撮影された風景、グルメなど、糸満市の魅力がつまった写真をオリジナルハッシュタグ「#piece_itoman」「#糸満pr大使」「#peace_itoman」を使って一覧できるよう共有しています。

糸満市の魅力が多くの人に伝わるよう、広報紙でもオリジナルハッシュタグを付けて投稿された写真の一部を紹介していきます。

今回の紹介する写真の撮影者は「jun1130.okinawa」さん。

大度海岸から撮影された風景で、夕日が沈んだあとの空の様子やあたりの静けさがそのまま伝わってくるような幻想的な写真でとても素敵一枚になっています。



Instagramで
糸満市の
魅力を紹介

あなたもInstagramを使って糸満市の魅力を発信しませんか？アプリを持っていない人は「Instagram」をダウンロードして写真にオリジナルハッシュタグをつけて投稿するだけ。あなたの好きな糸満市の風景、グルメ、伝統文化などを糸満pr大使として発信。Instagramを使って糸満市を盛り上げましょう♪



沖縄 糸満市女性連合会から マスクの寄贈がありました。

沖縄明治乳業株式会社の代表取締役社長らが市役所を訪れ、同社が実施する貧困対策の取り組みをPRしました。村田紳代表取締役社長は「オリジナルLINEスタンプの収益金を、子どもの貧困対策に向けた支援金として活用しています。オリジナルスタンプを購入いただくと、スタンプを活用しながら子どもたちの支援ができますので協力ください」と話しました。当銘真栄市長は「素晴らしい取り組みだと思いますので、今後も継続して活動をお願いします」と話しました。



有望漁業種として期待 ケンサキイカの試食会！

糸満市初となる本格的な冷凍装置を設備した省エネ型改革漁船でケンサキイカの水揚げがされ、その試食会が沖縄県水産公社地方卸売市場で行われました。ケンサキイカはマグロとソデイカに次ぐ有望な漁業種として期待され、糸満漁業協同組合などがプロジェクトに取り組んでいます。試食会に参加した関係者からは「とても甘くて食感もいい。糸満ブランドとして確立させたい」と期待の声が聞けました。

旬の話題をお届け！ とれたて いとれぼ



マグロの解体に挑戦！

沖縄水産高等学校で令和2年7月28日から30日まで「令和2年度缶詰実習」が行われました。この実習は、同校で50年以上続く伝統の実習で、総合学科食品化学系列の生徒たちがマグロの解体から缶詰作業まで行います。

実習は、先生に指導を受けながらマグロを解体、蒸煮、クリーニング(小骨の取除きなど)、肉詰め、加塩、注油などの手順で作業を進めます。

原料となるマグロは同校の海洋技術科の生徒が航海実習で獲ってきたビンナガマグロで、加工された缶詰は12月の沖水祭で販売されるということです。

実習を受けて2年生の樋園千波さん、上原あやなさんは「マグロを捌くために事前に動画をみただけ予想以上に難しかったです。出来上がった缶詰を食べるのが楽しみです」と話しました。



糸満市女性連合会から マスクの寄贈がありました。

糸満市女性連合会の会長らが7月31日マスクを寄贈するため市役所を訪れました。

玉城よしえ会長は「学校の先生は、生徒がマスクを忘れたときのために、個人でマスクを準備しているという現状を聞いて、余っているマスクがないか呼びかけてみたところ多くのマスクが集まりました。子どもたちのために活用してください」と話しました。

マスクの贈呈を受けて幸地政行教育長は「たくさんのマスクをありがとうございます。子どもたちのために活用させていただきます」とお礼を述べました。



SNSなどで募ったマスク約160枚 スクの寄贈がありました。

糸満市内で飲食店を経営する仲村千恵さんが8月13日マスクを寄贈するため市役所を訪れました。

家庭内に使われていないマスクがあるという声をきき、友人らにマスクの寄付を呼びかけ今回の寄贈にいたりしました。仲村さんは「遠くは県外からの寄付もありました。子どもたちのために活用してもらいたい」と話しました。

マスクの寄贈を受けて平田徳明福祉部長は「マスクの寄贈ありがとうございます。学校や福祉施設で活用できるよう調整します」とお礼を述べました。